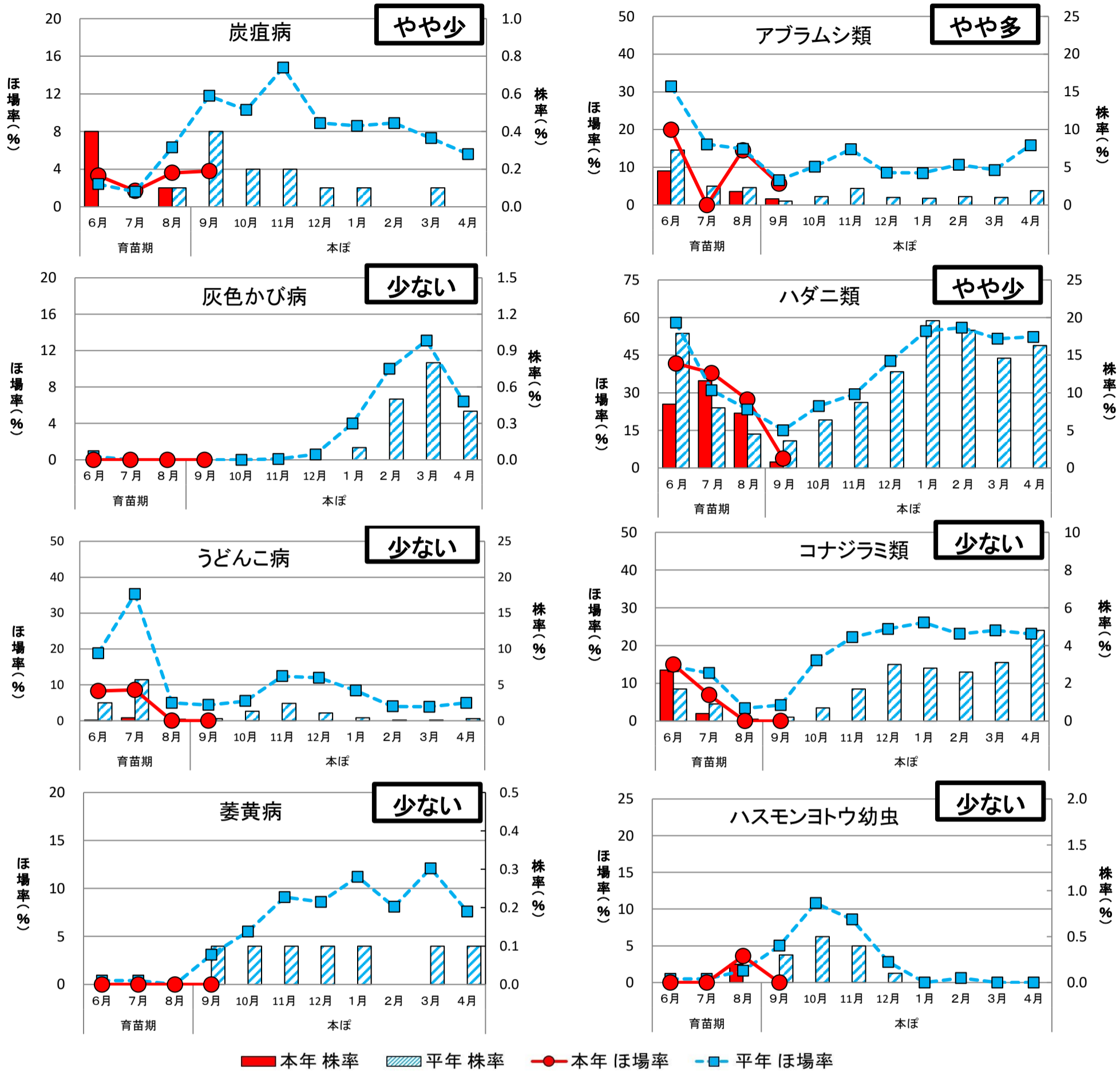


いちご病害虫情報第4号（9月）

令和5（2023）年9月22日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：53 箇所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー 本ぽ定植後の炭疽病対策 ー

本県において9～11月は、炭疽病の発生ほ場率・株率が高い時期です。今年は育苗期以降、発生しやすい気温の高い状態が続いているため、例年以上に発生に注意しましょう。

炭疽病の発生を認めたら、速やかに抜き取り、適切に処分しましょう

【炭疽病】

- 炭疽病は比較的高温を好み、20℃以上で発病する。
- 本ぽ定植後、ハウス内温度が高まると発病適温となり、潜在感染株が突然萎凋・枯死する。
- 発病株は速やかに抜き取り、ハウス外へ持ち出し適切に処分する。
- いちごの登録農薬は育苗床と本ぽで使用できる種類が異なることが多いため、ラベルをよく読み正しく使用する。

■ 今月のトピックス ハスモンヨトウ

生態と被害

卵塊（写真1）は毛に覆われた状態で葉裏に産み付けられる。

幼虫は、若齢（写真3）のうちには集団で葉を食害し不整形でカスリ状の食痕をつくる（写真2）。中・老齢（写真4・5）になると周囲の株へと分散し旺盛に食害し、昼間は地際や日陰に隠れるようになる。

幼虫は、頭の後ろに1対の大きな黒い斑紋のあるのが特徴である。

防除対策について

- 1 ほ場周辺の雑草は発生源となるため、雑草管理を徹底する。
- 2 ほ場内の観察により早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
- 3 成虫の侵入を阻止するため、施設の開口部や出入り口に防虫ネット（目合4～5mm）を展張する。施設のパイプ等にも産卵することもあるので注意する。
- 4 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。



写真1 葉上の卵塊



写真2 寄生葉

写真3 若齢幼虫



写真4 中齢幼虫

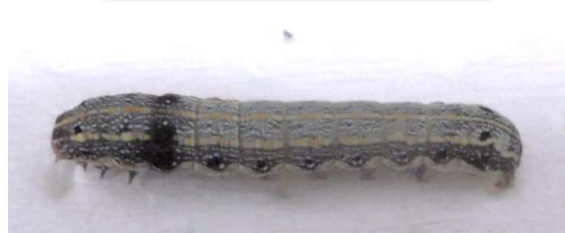


写真5 老齢幼虫



終齢幼虫では、体長4cm程度